

左右のデザインが違う場合は、表側から裁断すると間違いないですよ。

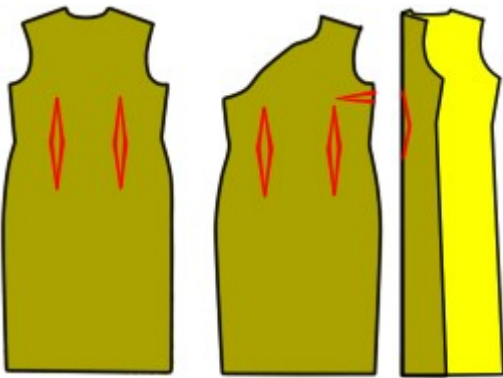
縫い代の外側に印をつけ、ダーツなどの印をつける場合は切りじつけをすれば後で糸を抜くだけなので、必ずしも裏から裁断しなければならないという決まりはないのですよ

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。

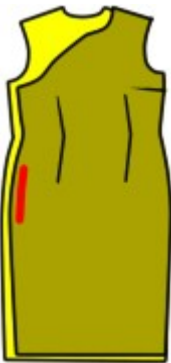
えりの裏に接着芯を付けてください。

くわしくは縫う前の下準備を参照

模様とかをつけたい場合はこの時点ですべて入れてください  
■表 ■裏 ■接着芯。



ダーツ (立体にするためのつまみ) を縫ってください。  
後のダーツ は後中心に向けて折ってください



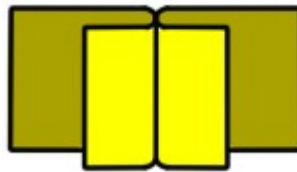
前身頃と後ろ身頃を表同士が内側になるように重ねて下さい。

これを洋裁用語で中表といいます。

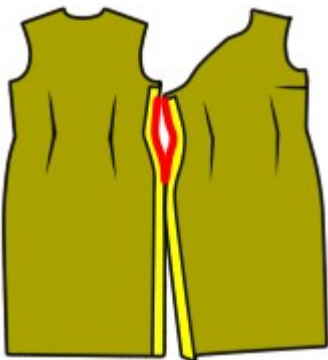
肩と脇を縫ってください

対側の脇と肩も同じように縫う。

縫い終わったら縫い代をアイロンで左右に折って下さい。



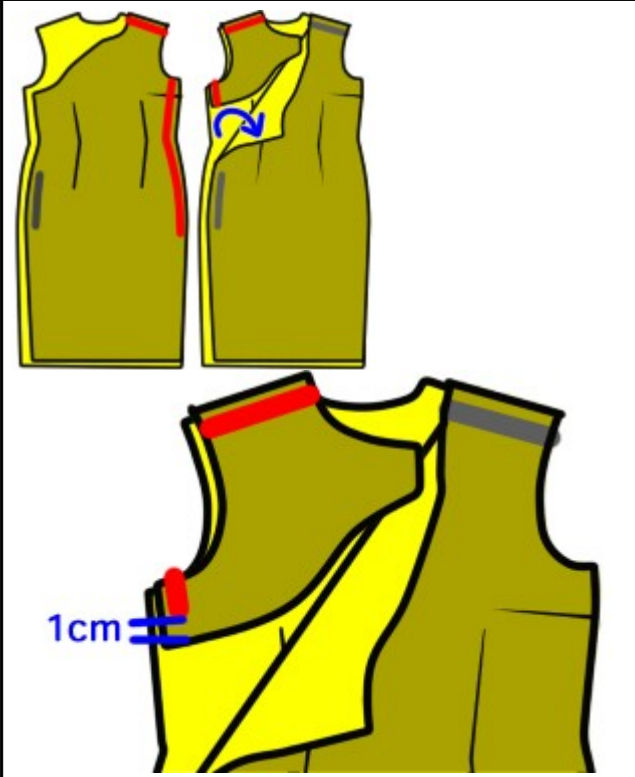
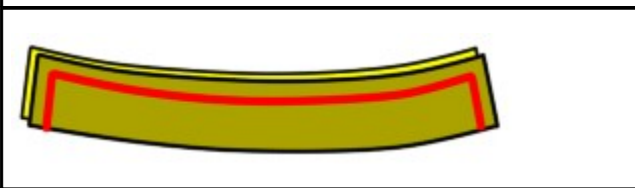
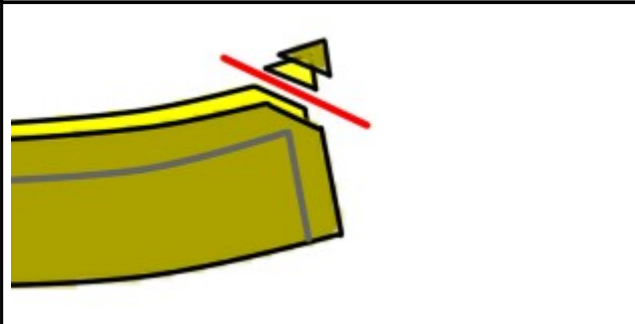
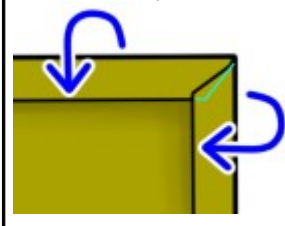
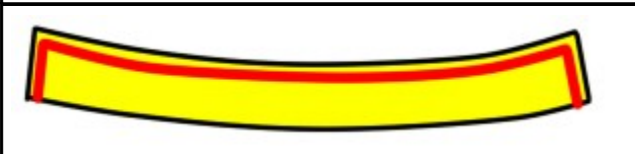
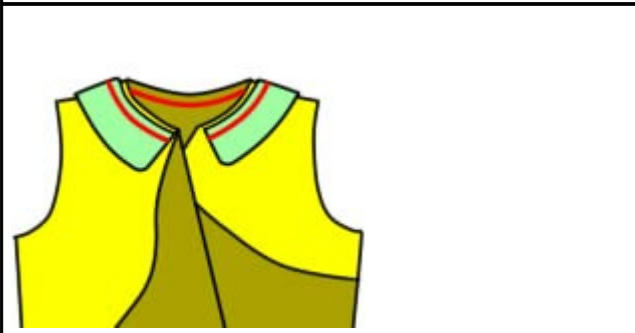
←洋裁用語で割るといいます

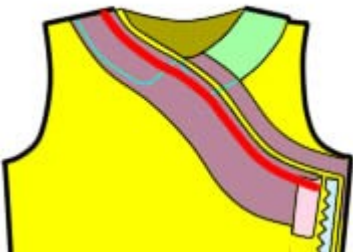

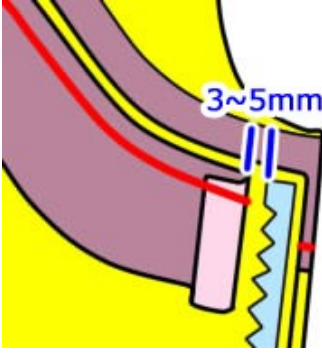

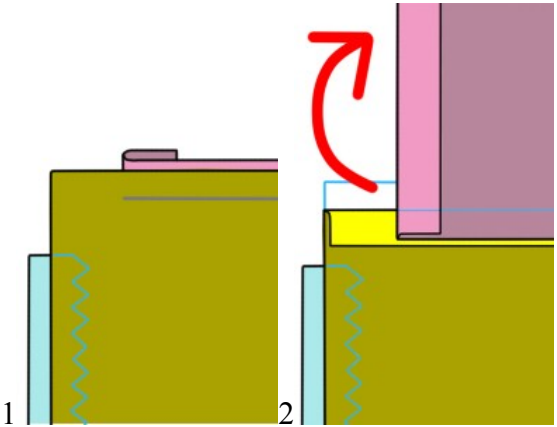
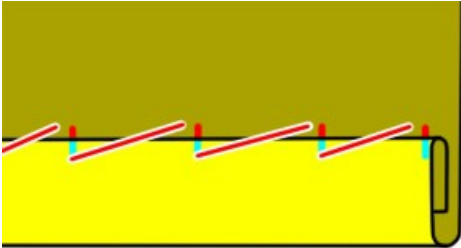


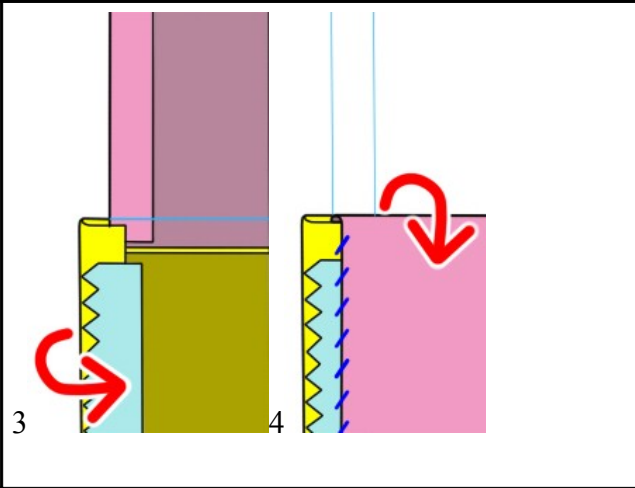

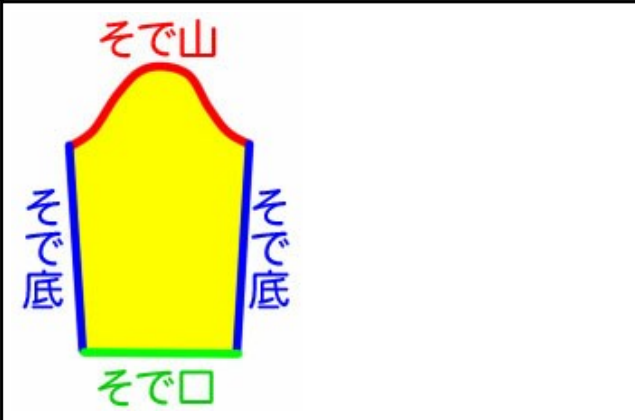
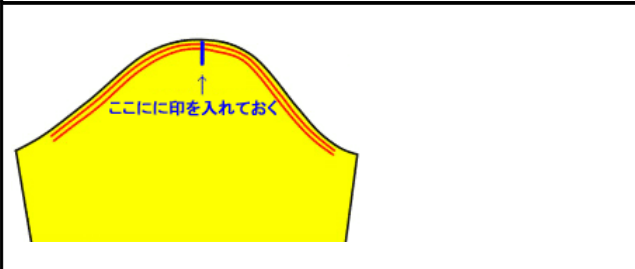

赤い部分にコンシールファスナーをつけてください。

ファスナーのつけ方はこちら。

動画もあるよ！

	<p>肩と脇を縫ってください。</p> <p>縫い終わったら縫い代をアイロンで左右に折ってください。</p> <p>後前身頃を縫いこまないようによけて、上の前身頃を縫ってください。</p> <p>片方の脇は1cm縫い代を縫わずに開けておく</p>
	<p>えりの表同士が内側になるようにに 重ねてください。</p> <p>赤い線のところを縫い合わせます。</p>
	<p>縫い目を切らないよう0.2 cm程はなれた所で、角を切り落とす。</p>  <p>縫い代を折りたたみ表替えす</p>
	<p>表に返して、表から0.5 cmのところを縫って下さい</p>
	<p>えりぐりに襟を重ねてください。</p>

 	<p>表が見えるようにした身頃に裏を上にした見返しを重ねてください。</p> <p>ファスナーの所は裏地の縫い代がファスナーより手前3～5mmのところまで折り返して縫ってください。</p> <p>カーブの所は縫い目を切らないように切り込みを入れてください。</p> <p>切込みを入れないと見返しを裏返した時に引きつります。</p> 
	<p>後ろえりぐりにほつれ止めする。</p>
	<p>右前を見返しを裏へ折り返してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 裏から見たところ</li> <li>2 見返しを起こしてください。</li> <li>3 ファスナーの所の縫い代を裏へ折って下さい。</li> <li>4 見返しを裏へ折って下さい。</li> </ol> <p>ファスナーのそばを手縫いで縫い付ける(青い線)まつり縫い↓</p>  <p>サイトには<a href="#">まつり縫いの動画</a>があります</p>

	
	<p>すその縫い代をアイロンで折って下さい。</p> <p>端から3～5 mm の所を縫ってください。見返しと襟ぐりの端から 5 mmのところを縫ってください。</p>
	<p>名称を覚えましょう 一番ふくらんでいる所、本体に縫い付ける所を<u>袖山</u>と言います 袖の脇のようなところを、<u>袖底</u>と言います。 そして手を出す部分を<u>袖口</u>と言います。</p>
	<p><u>袖山(そでやま)</u>にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。 ココでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまう筈です。 <b>詳しくは縫う前の下準備をご覧ください</b></p>
	<p><b>糸調整を元に戻します</b></p> <p>次に<u>袖底(そでそこ)</u>を中表(縫い合わせようとする面が表同士になるようにあわせること)にし、<b>赤い部分</b>を縫います。</p>

	<p>表に返して直線で内側からステッチをかけます。</p> <p>アイロンで折りぐせをつけておくと綺麗に縫えますよ！</p>
	 <p>←横から見頃(胴部分)は裏返して、 そでは表にひっくり返しておきます。</p> <p>見頃の中にそでを入れます。</p> <p>肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめていきます 縫う場所より2〜3ミリ横を仕付け糸を使い縫っておくと、ミシンで縫う時に針を折る心配がなくていいよ！ しつけ縫いをしてからミシンで縫ってください。</p>
	<p>仕上げに縫い代にしっかりアイロンをかけて完成です。</p> <p>仕上げのアイロンはしわをのばすよりも、縫い代にしっかり折り目をつけることが重要です。</p> <p>スナップボタンを付けてください。</p>

### 必要な道具

表生地、裏地、スナップボタン、コンシールファスナー、接着芯、糸

### お勧めの生地

・[チャイナジャガード](#) [チャイナサテン](#) や チャイナブロードと呼ぶお店も一般的にチャイナ生地と呼ばれる生地です。  
素材によって洗濯方法が異なったりするので、素材に注意。

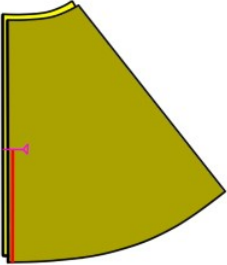
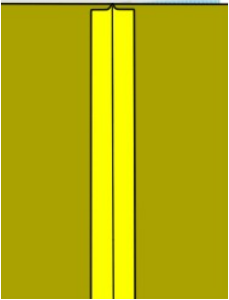
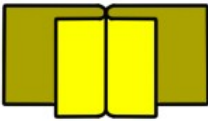
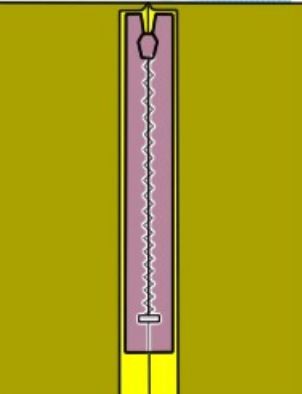
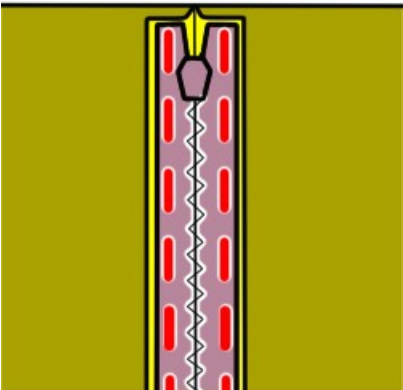
#### ・[サテン](#)


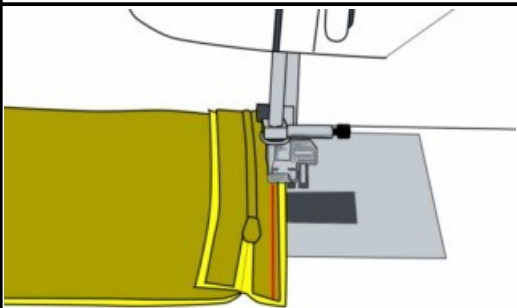
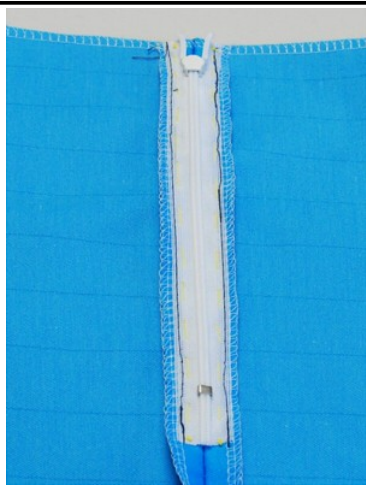

光沢のある縹子織りの生地。  
これも素材によってお手入れ方法が異なる。  
ふわっと軽くなびくようなデザインにしたいなら、薄手のポリエステルサテンがオススメ。

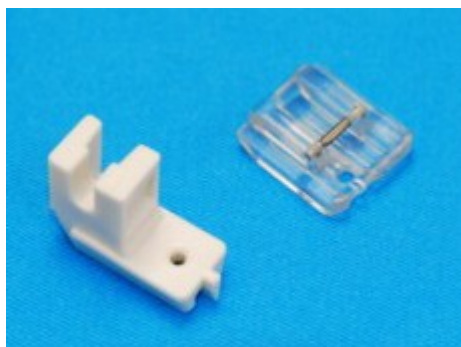
#### ・[ポリエステルツイル](#)

アニメや漫画のキャラクターで、普段着としてチャイナ服を着ているようなキャラだとこれがおすすめ。  
化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。  
しわになりにくいです  
張りがあります、パニエを下にはいて広げたい場合に向いていますが、張りがある分柔らかくドレープを出したい場合には向きません。  
初心者にも扱いやすい生地です。



	<p>つけたい位置ののファスナーを付ける位置から下を縫う。 ピンクの印の所を「<u>あきどまり</u>」といいます。</p>
	<p>縫ったら、縫い目の長さを2～3mmに戻し、アイロンで縫い代を左右に<u>割る</u></p> <div data-bbox="735 857 943 976" data-label="Image">  </div> <p>割る</p>
	<p>裏を上にして生地を置く。 縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置く。</p>
	<p>しつけ糸でファスナーと、縫い代だけを開きどまりの所まで大雑把に縫う。</p>

	<p>ミシンの押さえをこのような形のファスナー押さえと取り替える。ミシンによって多少異なります。</p>
	<p>表の生地をよけるようにして、ファスナーと縫い代の端を「あきどまり」まで縫う。</p>
	<p>両方の端を縫う。</p>
	<p>大きい目で縫った部分だけをほどく。 「あきどまり」から下はほどかないように注意！ ファスナー下げられるところまで下げる。 長めのファスナーならこの時開きどまりより下まで下がりますので下げておくと縫いやすくなる。</p>



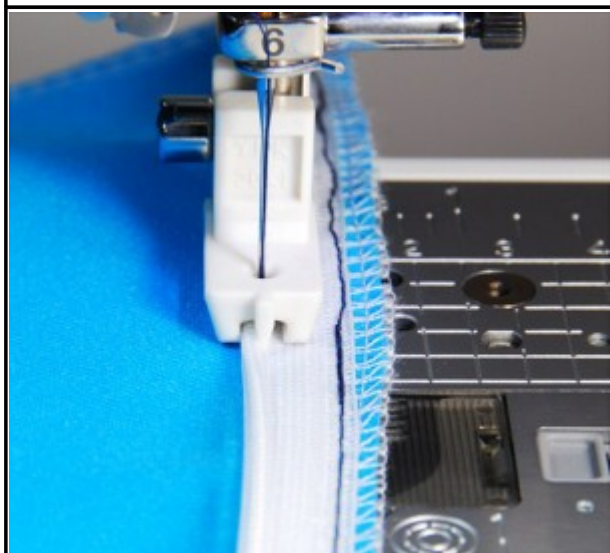
ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえに替える。

このコンシールファスナー押さえは一般的な家庭用ミシンであれば数百円で購入ができます。

お洋服を作る人は1つ持つておくくと便利です。

左側は軸から替えるタイプ、右は後のボタン押して押さえを交換するタイプ用

コンシールファスナー押さえはこのように裏側に溝が入っています。



この溝にファスナーのムシ(レール部分)を入れて縫うと、ファスナーのムシのそばギリギリを縫うことができる。

そして開きどまりまで縫う。

これでファスナー付け完成。